

令和6年度NPO等と連携したこどもの居場所づくり支援モデル事業
報告書

青森市こども・若者の居場所づくり支援モデル事業

特定非営利活動法人プラットフォームあおもり
(青森市)

目次

| | |
|--------------------|----------|
| 1. 事業概要 | P 2 |
| 2. 事業目的 | P 2 |
| 3. 事業実施スケジュール | P 2 |
| 4. 実施内容 | |
| (1)居場所づくり | P 3 - 4 |
| ○活動の場の提供 | |
| ○交流の場の提供 | |
| ○相談の場の提供 | |
| ○事業終了後のつながりの確保 | |
| 「居場所づくり」アンケート | |
| (2)その他の活動 | P 5 - 12 |
| ○学びや体験活動 | |
| 「体験活動」アンケート | |
| 「食育活動(こども食堂)」アンケート | |
| ○交流イベント | |
| ・「交流イベント」アンケート | |
| 5. 各事業考察 | P 13 |
| 6. 会計報告 | P 14 |

1.事業概要

本事業は、既存の支援対象外となりながらも継続的な居場所を必要とする子どもや若者に対し、安全・安心な居場所と多様な体験活動の機会を提供するとともに、彼らが主体的にボランティアとして参加できるピアカフェのような仕組みを構築するものです。青森市の「子どもの居場所づくり・学習応援事業」と連携しながら、小学生から若者までの年齢で区切らない包括的な居場所づくりを展開します。

2.事業目的

多様な背景(家庭内不和、親のDV、不登校、発達障害など)を持ち支援の対象からこぼれ落ちている子どもや若者の孤独・孤立を解消し、同世代・多世代交流を通じた相互支援を促進することを目的としています。これにより、利用者の自己肯定感や自己有用感を高め、社会的・経済的貧困の連鎖を断ち切るとともに、子育ての孤立化が進む家庭への支援にも寄与します。

3.事業実施スケジュール

1) スケジュール

▶9月～10月中旬

広報・周知:支援を必要とする子どもや若者およびその家庭に確実に情報が届くよう、戦略的な広報活動を展開しました。中学校や公共施設(公民館等)へのチラシ配布を実施し、InstagramやFacebookなどのSNSを活用した情報発信を定期的に行い、イベント情報や活動報告を視覚的に魅力ある形で提供しました。公式LINEアカウントを開設し、双方向コミュニケーションを可能にする相談窓口としても機能しました。

▶11月～

- ・居場所づくり開始(毎週月曜・水曜・金曜):自由活動・相談対応等のスペース提供。
- ・体験プログラム開始(毎週水曜):専門家を招いて様々な学びや体験の機会を提供するプログラム提供

▶11月・12月・1月・2月

- ・地域交流イベント実施:フードバンク事業「おすそわけ会」の運営サポート、地域商店街との共同イベントの実施(子どもカフェ運営)

▶12月～

- ・子ども食堂開始(毎週金曜):子どもたちとスタッフが一緒に作りみんなで食べる調理プログラム提供

▶3月中旬～下旬

- ・報告書:作成・提出

4.実施内容

◎居場所づくり

○活動の場の提供

いつでも気軽に立ち寄れる居場所を提供しました。誰かと会話を楽しんだり、本を読んだり、ゆったりと過ごしたりできる空間として、利用者はそれぞれの目的に合わせて自由に活用し、多くの方が自由活動の場として利用していました。

家庭や学校、友人関係では話づらいことも打ち明けられる環境に、多くの利用者が安心感と居心地の良さを感じてくれていたようです。

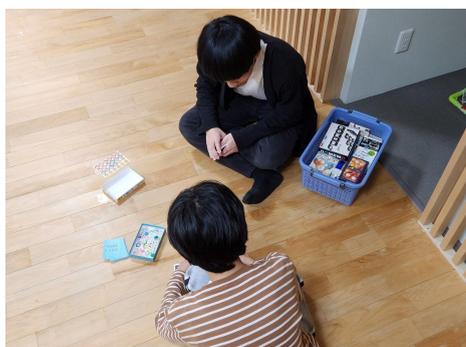
○交流の場の提供



別事業の中学生や小学生、支援スタッフとの交流が自然に生まれるなか、年齢や所属を超えた関わりを通じて多様な人間関係が構築されました。

年長者がロールモデルとなり、互いに学び合う関係性が自然と育まれていきました。単なる居場所という枠ではなく、多世代交流と相互支援が生まれる「コミュニティスペース」として機能し、利用者の社会性向上と自己肯定感を高める重要な活動基盤となりました。

○相談の場の提供



元高校教諭や大学生など多様な背景を持つ人々が関わっていました。利用者はこうした支援者から進学や就職といった将来の選択について具体的なアドバイスを得る機会がありました。

経験豊富な大人たちは人生経験を活かした相談に応じる一方、大学生は「斜め上の関係」として利用者がより気軽に話せる存在となり、進路や人生相談だけでなく恋愛の悩みなどにも対応していました。

○事業終了後のつながりの確保

公式LINEを活用し、情報発信だけでなく個別チャット機能も導入することで、些細な悩みにも対応できる体制を整えました。気軽に相談できる関係性を構築し、いつでもコミュニケーションが取れるプラットフォームとして活用しています。



「居場所づくり」アンケート

◇ 満足度

・とても満足:70% ・満足:20% ・普通:10% ・不満足:0%

◇ スタッフの対応

・とても良い:85% ・良い:15% ・普通:0% ・不満足:0%

- 話しかけてくれたので安心できた
- 落ち着いた雰囲気を作ってくれた

◇ いろいろな人と交流できたか？

・できた:92% ・少しできた:8%

- 最初は緊張したけど、話しかけてくれる人がいて安心できた
- 自分からは積極的に話せなかったけど、周りの雰囲気が良くて自然に会話できた
- 他の年代の人とも話せて新鮮だった

◇ 相談について

・相談できた:70% ・相談できなかった:10% ・特に相談することがなかった:20%

- 進路のことを大人に相談できたのは初めてだった
- 恋愛の悩みを話してみたらスッキリした
- 何かあったらLINEで相談できると思うと安心だった

◇ 参加したいと思ったきっかけ

- SNSで楽しそうだったから
- チラシを見て、居場所が欲しかった
- 友達に誘われた

◇ 感想(自由記述)

- 勉強もできて、話もできて、ちょうどいい。
- 相談できる人がいるのが安心できた。
- 学校と違って無理に何かをさせられないのがよかった。
- 優しいスタッフさんばかりでホッとした。
- 自分から話すのが苦手だけど、ここでは話せた。
- 自分のペースで過ごせるって大事だと思った。
- 知らない人とも仲良くなれたのがうれしかった。
- ずっと続いてほしいです！

◎その他の活動

○学びや体験活動

体験プログラムの実施(毎週水曜日)【11月～】



さまざまな分野の専門家を講師としてお招きし綿密に連携することで、利用者に質の高い実践的な学びの場を提供しました。多岐にわたる専門分野を持つエキスパートと共同で企画立案のプロセスを丁寧に進め、参加者のニーズや発達段階に合わせたプログラム設計を心がけました。体系的かつ継続的な体験の機会を確保することで、単発のイベントではなく段階的に深く学べる質の高い体験内容を実現することができました。

現代社会において、家庭環境や地域格差などによる経験の貧困は子ども・若者世代が直面する大きな課題となっています。このような状況下では、多様な原体験の積み重ねが非常に重要であり、それにより視野が大きく広がり、将来の選択肢の幅が格段に増えるものと確信しています。専門家との交流を通じて、教科書だけでは学べない実社会の知恵や技術に触れることで、子どもたちの好奇心や探究心が自然と育まれていく様子が見られました。

さらに、多くの子どもや若者は「やったことがない=やれない」という固定観念を無意識のうちに抱いてしまいがちです。しかし、本プログラムを通じて多様な体験にチャレンジする機会を提供することで、「まずはやってみよう!」という前向きな姿勢や「自分にもできる!」という自信を育み、チャレンジ精神と自己肯定感の大幅な向上に繋げることができました。

参加者からは「初めは不安だったけれど、やってみたらできた」「新しい自分の一面を発見できた」といった声が多く寄せられ、体験を通じた成長の証が見られました。

▶実施した主な体験プログラム

ビジョントレーニング、アロマワークショップ、ハッピートーク、アイロンビーズワークショップ、ドットアートワークショップ、料理教室、バランスボール体操、eスポーツ「みんなでぷよぷよ」、点描曼荼羅ワークショップ、アロマワークショップ、シャンプーの使い方ワークショップ、カラーワークショップ、ボディーワーク教室、書道家から学ぶ書道体験会、シーグラスワークショップ、こぎん刺し教室、英会話教室

▶参加募集SNSバナー



▶参加募集チラシ



「体験活動」アンケート

◇ 満足度

・とても満足:65% ・満足:25% ・普通:10% ・不満足:0%

◇ スタッフの対応

・とても良い:80% ・良い:20% ・普通:0% ・不満足:0%

- 初めてでも丁寧に教えてくれた
- わかるまでゆっくり説明してくれた

◇ いろんな人と交流できたか？

・できた:88% ・少しできた:12% (理由抜粋)

- 同じプログラムに参加した人と自然に話せた
- 慣れるまで時間がかかったけど、最後は話しかけられるようになった
- グループワークがあって、交流しやすかった

◇ 新しいことにチャレンジできたか？

・はい:98% ・いいえ:2% (理由)

- 写経をやってみて集中力が高まった気がした
- バランスボール体操で体を動かして楽しかった
- 英会話が新鮮だった

◇ 今後やってみたいこと

- 動画づくり体験
- 科学実験教室
- クッキングコンテスト

◇ 感想(自由記述)

- 写経体験、集中できて心が落ち着いた。
- こぎん刺し、もっとやりたい！
- 色んな先生がいて毎週楽しみでした。
- 毎回違うことができて飽きなかったです。
- eスポーツ、めちゃくちゃ楽しかった。
- 緊張したけど、チャレンジしてよかった。
- お友達と協力できたのがいい経験でした。
- アート体験は表現する楽しさを知れた。
- はじめは不安だったけど、やってよかった。
- 次は友達も誘いたい。

食育活動(こども食堂)の実施(毎週金曜日)【12月中旬～】



「みんなの食堂」は利用者自らがメニューの企画から調理方法の検討までを担い、主体的に活動に取り組みます。各自がアイデアを出し合い、最適な調理法を調査する過程で、食への知識や創造力が養われるとともに、協働の精神も培われます。調理後は、全員で出来上がった料理を囲み、楽しく交流することで、利用者間の結びつきが深まり、温かい食のコミュニティが形成される仕組みとなっています。

▶実施した主なプログラム

ハンバーガー作り、手打ちうどん作り、お雑煮作り、オムライス作り、餃子作り、簡単ピザ、肉巻きおにぎり、クレープ作り、デコレーションタコス、野菜カラフル春巻き、カップ寿司、チョコフォンデュ

▶参加募集チラシ



「食育活動(こども食堂)」アンケート

◇ 満足度

・とても満足:68% ・満足:25% ・普通:7% ・不満足:0%

◇ スタッフの対応

・とても良い:90% ・良い:10% ・普通:0% ・不満足:0%

- 一緒に調理してくれてうれしかった
- やさしく声をかけてくれた

◇ いろいろな人と交流できたか？

・できた:70% ・少しできた:20% ・あまりできなかった10%

- 一緒に料理することで自然と会話が生まれた
- 知らない子と席が隣になって、話すきっかけができた
- 人見知りだけど、スタッフが間に入れてくれた

◇ 新しいことにチャレンジできたか？

・はい:96% ・いいえ:4%

- 初めて料理をした
- クレープづくりが難しかったけどできた！
- 自分で食べたいものを考えるのが面白かった

◇ 今後やってみたいこと

- 家でも料理をしたい
- 自分のお弁当を作ってみたい
- 地元の食材を使ったメニュー

◇ 感想(自由記述)

- ハンバーガー最高でした！
- みんなで一緒に食べるのが楽しい。
- 料理がうまくなった気がする！
- 一緒に作ると会話が増える。
- ピザづくり、家でもまたやりたい。
- お好み焼き、フワフワでおいしかった！

○交流イベント

地域住民との交流

▶おすそわけ会(フードバンク事業)のサポート【12月・1月】



運営法人が実施しているフードバンク事業「子ども宅食応援団おすそわけ会」の運営に携わることで、地域社会における子どもたちとその家族の多様な生活状況に触れる機会を得ました。(当日は西秀記青森市長もお越しいただきました。)

活動の中で、小学低学年の子どもたちの無邪気な反応から、高学年の兄弟のより複雑な家庭内役割まで、様々な家族を目の当たりにしました。

初めは予想外の反応や状況に戸惑うこともありましたが、その経験自体が貴重な学びとなりました。例えば、内気な子どもが少しずつ心を開いていく過程や、兄弟で協力して食品を選ぶ姿、親が子どもの意見を尊重する様子など、家族それぞれの絆を垣間見ることができました。

活動を通して、食料支援という物理的な支援の先にある「つながり」の大切さも実感したことと思います。

地域商店街とのイベント共同実施

▶子どもカフェの開催・ワークショップのサポート【2月】



地域との連携を深めるため、実施会場エリアの商店街とコラボレーションした企画を展開しました。利用者は地域商店街の方たちと共にイベント運営に携わり、実践的な社会体験の機会を得ることができました。子どもカフェを企画・運営し、商品提供や接客の実務経験を積みました。また、食育講和では運営サポートを行い、地域の食文化や健康的な食生活について学びながら、イベントの裏方としての役割も体験しました。

親子向け工作ワークショップブースでは、利用者が講師のアシスタントとして活躍し、作成方法のレクチャーや材料準備、利用者のサポートなど、教える立場を経験することで自信につながりました。

これらの活動を通じて、利用者は単なる支援の受け手ではなく、地域づくりの担い手として主体的に関わる経験を得ることができました。また、商店街の方々との世代を超えた交流は、地域における若者の居場所づくりと相互理解の促進に貢献し、まちづくりを共に考える貴重な機会となりました。

「交流イベント」アンケート

◇ 満足度

・とても満足:60% ・満足:30% ・普通:10% ・不満足:0%

◇ 地域の人と交流できましたか？

・とてもできた:82% ・まあまあできた:18%

- 商店街の人と話すのは緊張したけど、優しく接してくれた
- 接客を通じて参加した人と自然に言葉を交わせた
- 小さい子に教える場面があって、自分が頼られていると感じた

◇ 新しいことにチャレンジできたか？

・はい:91% ・いいえ:9% (理由)

- 接客体験が初めてだった
- 初めて会う人と話すのはドキドキだったけど楽しかった

◇ 今後やってみたいこと(自由回答抜粋)

- 地元のお祭りに参加してみたい
- 地域の人にインタビューしてみたい

◇ 感想(自由記述抜粋・全10件)

- 地域の人たちがあたたかかった。
- フルグルマーケットがすごくにぎやかで楽しかった！
- 漁師の話が印象に残りました。
- おすそわけ会の準備は大変だったけど、やりがいがあった。
- 接客で失敗したけど、またやりたい。
- なかなかできないことが体験できてうれしかったです。

5.各事業考察

居場所づくりにおいては、世代を超えた交流や立場の異なる方々との時間共有が、参加者の思考の幅を広げ、新たな視点獲得の機会となりました。特に、一人では解決できない問題について相談できる相手の存在と、そうした人間関係を築ける環境が、参加者の精神的支えとなっています。定期的に人に会う機会を通じて参加者間の信頼関係が深まり、自然なコミュニティ形成が見られました。

体験プログラム事業では、こぎん刺しなどの伝統工芸や体操などの体を使ったプログラム、アート活動など多様な分野の専門家を招聘し、質の高い体験の機会を提供できました。参加者は新たな知見獲得と興味分野の発見だけでなく、講師陣から語られる挫折や困難の乗り越え方についての実体験を聞くことで、自身のモチベーション向上につなげることができました。「自分も挑戦したい」「新しいことを始める勇気もらった」という前向きな感想が多く寄せられています。

地域商店街との交流活動は、参加者の社会性育成の重要な機会となりました。初期には積極的に動けない場面も見られましたが、交流回数を重ねるごとに地域商店主の方々からのサポートが自然と生まれてきました。カフェ形式イベントでは、参加者がウェイターとして注文を取るという初体験に挑戦し、回を重ねるごとに自信をつけていく様子が印象的でした。この接客経験は言語・非言語コミュニケーション能力向上に大きく貢献しています。

工作ブースでは、多くの子どもたちが殺到したことでスタッフ不足という課題が生じましたが、参加者自身が自発的に講師役を担当し、子どもたちに工作の指導を行う場面が見られました。普段は人前で話すことに消極的だった参加者も、教える立場になることで自然と声を出し、笑顔で接するなど、自己効力感向上につながる変化が観察されました。

今後は継続的な関係構築、参加者主導のプログラム開発、地域資源のさらなる活用、効果測定の実施などに注力し事業のブラッシュアップが必要。課題としては参加者の個人差に配慮したプログラム設計や、活動の持続可能性確保のための資金調達、人材確保が挙げられます。本事業を通じて、安心できる環境での新たな挑戦機会の提供が、参加者の内面的成長と社会的スキル向上に貢献できたと考えています。

6.会計報告

| 区分 | 費目 | 支払い先 | 摘要 | 金額 |
|-------------------------------------|-----------|--|---------------------------------|-----------|
| 居場所の設置・運営 - 居場所づくり:76回 | 非常勤給料A | | 76回(2024年10月~3月分) | 905,920 |
| | 非常勤給料B | | 76回(2024年10月~3月分) | 905,920 |
| | ボランティア交通費 | 青森市営バス ...他 | | 150,000 |
| 食育や多世代交流活動 - 食育活動:15回 | 消耗品費 | | 食育活動:15回 ×15人 | 67,500 |
| 地域理解体験講座 - 体験活動:19回 - 地域交流:5回 | 講師謝金 | 1.Eye-Bビジョントレーニング 2.アロマワークショップ 3.ハッピートーク 4.対話ワークショップ 5.アイロンビーズワークショップ 6.ドットアートワークショップ 7.バランスボール体操 8.eスポーツ 9.書道教室 10.点描曼荼羅ワークショップ 11.アロマワークショップ 12.シャンプーの使い方ワークショップ 13.書道教室 14.ボディーワーク教室 15.書道教室 16.シーグラスワークショップ 17.こぎん刺し教室 18.英会話教室 | 外部講師:18回分 ※全24回中18回は外部講師 | 180,000 |
| | ボランティア交通費 | 青森市営バス ...他 | | 20,000 |
| その他 業務一式 | 企画・運営費 | | 企画・運営スタッフ人件費 | 228,000 |
| | 広報費 | ラクスル ...他 | サイト掲載・チラシ作成 | 60,000 |
| | 消耗品費 | ダイソー ...他 | 事務用文房具他 | 13,660 |
| | | | 小計 | 2,531,000 |
| | | | 消費税 10% | 253,100 |
| | | | 合計 | 2,784,100 |